

2015年1月27日 キャリア支援講演会
宮崎大学農学工学総合研究科

自分をアピールすること

大分工業高等専門学校 都市・環境工学科

助教 古川 隼士



Contents

1. 自己紹介

- 略歴など

2. 学生時代の経験

- 研究業績について
- 学会での各種発表賞を受賞して学んだこと (アピール能力の大切さ)

3. 大分高専の紹介

- 高専での業務内容 (1週間・1日のスケジュール)
- 国際的な活動の紹介 (海外での活動・交流を通じて学んだこと)

4. まとめ

- わたしからの提案

古川隼士の略歴

○ 古川 隼士 (Furukawa Takashi)

○ 佐賀県鹿島市 (白石高等学校出身)

○ 略歴

- 2002. 4 - 2006. 3 宮崎大学工学部土木環境工学科
- 2006. 4 - 2008. 3 宮崎大学大学院工学研究科博士前期課程土木環境工学専攻
- 2008. 4 - 2011. 3 宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程資源環境科学専攻
- 2011. 3 博士(工学)取得
- 2011. 4 - 2012. 1 宮崎大学IR推進機構研究員
- 2012. 4 - 大分工業高等専門学校都市・環境工学科

○ 学士・修士・博士論文

- 海水混合による都市河川水中のフルボ酸鉄の凝集とエストロゲンの動態との関係, 卒業論文
- エストロゲンの河口域における環境動態と削減技術に関する研究, 修士論文
- 沿岸レクリエーション用水域におけるふん便性細菌の汚染源追跡手法の開発, 博士論文

学生時代の業績について

○ 査読付き論文（博士修了時）

- 英文雑誌:7本（筆頭4本, 連名3本）
- 和文雑誌:5本（筆頭3本, 連名2本）

○ 学会発表（博士修了時）

- 国内学会:20件（筆頭:16件, 連名:4件）
- 国際学会:3件（筆頭:3件）

○ 受賞歴

- 土木学会平成26年度全国大会第69回年次学術講演会優秀講演者賞（2014. 9）
- 環境技術学会第13回年次大会優秀プレゼンテーション賞（2013. 9）
- 平成22年度日本水環境学会九州支部発表会優秀講演者賞（2011. 3）
- 土木学会平成22年度全国大会第65回年次学術講演会優秀講演者賞（2010. 9）
- 第12回水環境学会シンポジウム博士研究奨励賞（オルガノ賞）（2009. 9）
- 第45回環境工学研究フォーラム優秀ポスター発表賞（2008. 11）
- 平成19年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演者賞（2008. 3）

学生時代から意識して取り組んでいること

研究活動

効果

- **多数の学会発表賞を獲得（業績として残る！）**
- 説明する能力が向上 → 現在の講義でも発揮
- 学内外の先生方から顔（と名前）を覚えられる

実行

- 常に危機感を持って、研究活動に取り組む
- 学会発表に積極的に投稿・参加
- **学会発表の準備と発表練習は抜かりなく！**
- 学内外で開催された講演会等に積極的に参加
- 学内外で同・異分野の先生方、研究者、学生と交流

経緯

- B4, M1時代の学会発表で有名大学の学生と交流
- **地方大学の学生でも研究で勝負できる！**
- 博士課程の学生はコミュニケーション能力がない??

アピール能力

大分高専の紹介

○ 高等専門学校（独立行政法人国立高等専門学校機構）

- ・ 5年制の高等教育機関
- ・ 全国に57校（国立:51校, 公立:3校, 私立:3校） ※2014年4月1日現在



○ 大分工業高等専門学校（大分県大分市牧1666番地）

○ 学科

- ・ 一般科理系・文系
- ・ 機械工学科（宮崎大学出身教員1名）
- ・ 電気電子工学科（1名）
- ・ 情報工学科（1名）
- ・ 都市・環境工学科（2名） ※その他に技術職員2名が活躍中



学科間の教員同士の仲が良く、アットホームな雰囲気も特徴的です。



高専での業務内容（ある1週間のスケジュール）

	月	火	水	木	金
08:50～10:20	学科会議（定例）		実験実習	会議（定例）	
10:30～12:00	講義			講義	講義
12:50～14:20	講義	卒業研究		実験実習 卒業研究	卒業研究
14:30～16:00	講義				
放課後		部活動の監督		教員会議 （部活動の監督）	学生寮宿直 （17:00～翌朝）

※ その他の業務

部活動の大会引率（年2～3回）、校門指導（月1回）、体育祭、高専祭、音楽祭

高専での業務内容（ある1日のスケジュール）

	6:00	15	30	45	7:00	15	30	45	8:00	15	30	45	9:00	15	30	45	10:00	15	30	45	11:00	15	30	45	12:00
内容	起床, 朝食, 出社				メールチェック, スケジュール確認				校門指導				学科内会議(週1回)				講義								
	12:00	15	30	45	13:00	15	30	45	14:00	15	30	45	15:00	15	30	45	16:00	15	30	45	17:00	15	30	45	18:00
内容	昼食				卒業研究								委員会会議				部活動の監督								
	18:00	15	30	45	19:00	15	30	45	20:00	15	30	45	21:00	15	30	45	22:00	15	30	45	23:00	15	30	45	0:00
内容	部活動の監督				自身の研究活動, 翌日の講義準備など (夕食もこの時間)								帰宅		ジョギング				就寝準備				就寝		

- ◆ 部活動, 学生指導や校門指導など, 高等学校の先生がするような業務がある。
- ◆ 卒業研究は時間割に組み込まれており, 基本的にはこの時間で実施する。
- ◆ 体育祭や高専祭など, 学生と関わるイベントが盛りだくさん!

高専教育を通じての国際的な活動

2012年8月



2013年8月



2014年8月



学生引率の傍ら、研究活動も…

国際的な活動を通じて感じたこと

◆ やっぱり英語能力！！

→ 英語によるコミュニケーションでストレスを感じないレベルが必須
(高専でも近い将来, 英語での講義・講演が常になる??)

◆ 東南アジアの多数の大学教員は, ヨーロッパ・アメリカ・日本などで学位取得
→ 語学力の向上と同時に, 研究対象の幅が広がる

◆ 海外への留学は若ければ若いほど良い

→ 進学 or 就職の対象を海外へ広めてみては?? (海外学振, ポスドク etc…)
(指導教員からの紹介も必要??)

大学生のうちに, とにかく英語に触れて英語能力を向上してほしい

何が必要か？

古川の採用時には、以下の点を中心に評価したそうです… (by 採用関係者)

積極性

- 教育・研究活動を積極的に行う
- 学生との付き合い
- 教職員との付き合い
- 誰とでも雑談ができる
- **コミュニケーション能力**
- 高専は『学生の教育』の方が重み大きい

業績

- 着任前の研究業績は、ないよりある方がもちろん良い
- IFは重要視されない??
- 査読付論文数で評価
- 着任後に研究を継続してできるかどうかを判断
- **教育はできて当たり前**
→ 研究業績を挙げられるか

貢献度

- 学内のさまざまな業務に対応できるかどうか
→ 順応性
- **研究業績を挙げられるか**
→ 学生の研究指導にも影響
- 国際的な活動への貢献

積極的かつ貪欲な研究活動によって向上させることが可能

まとめ（提案） ～わたしも意識して実施していること～

◆ 学会発表や学内外のイベント（講演会、シンポジウムなど）に積極的に参加

- ・ 発表のテクニックを盗む！真似する！
- ・ プレゼンテーション能力向上のための努力を怠らない！
- ・ 積極的に賞を狙いに行く！

◆ コミュニケーション能力を培う

- ・ 学内外の多くの人と交流することは、自分にとってポジティブな影響しかない！
- ・ 誰とでも雑談ができることが大切！

…これについては私もまだまだです

自分をしっかり **アピールできる** 機会をたくさん作ってください

2015年1月27日 キャリア支援講演会
宮崎大学農学工学総合研究科

ご清聴ありがとうございました

